

理事長就任にあたって



公開保育の実施で 幼児教育の質の向上を目指して

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

理事長 田中雅道

今期も公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長の重責を担わせて頂くことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨秋、全国の私立幼稚園保護者の皆様方に署名活動の応援を頂きました「幼児教育振興法」が先の通常国会に上程されました。残念ながら、次の国会に継続審議となり、まだ法律は成立していませんが、あと一步のところまでこぎ着けることができました。これも皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

この法案で“幼児教育”は、幼稚園、認定こども園、保育所などで実施されている施設の教育、地域の教育、家庭の教育、全てを含むものと定義されており、小学校就学前の全ての子どもに対して良質な教育が提供されるための様々な提案がなされています。今、世界は幼児期からの一貫した教育の充実が国家繁栄のための重要課題と認識し、幼児教育に力を入れ始めている時に、少し遅れましたがようやく日本もその体制が整いつつあることを大変嬉しく思っています。幼稚園の満3歳未満児への家庭の教育支援事業が重要な役割になりつつある現代、就労しなければ施設に預けることができなかった保護者にとって、子どもの育ちの視点から家庭の教育を支える幼稚園への期待は大きなものがあります。従来、幼稚園は、幼児教育以外の事業に対して「目的外施設利用」としてかなり制限を受けてきましたが、幼稚園本来の目的である幼児教育の充実は、家庭の教育支援によって、より深まるものであると考えられていま

す。この事業に対する補助制度が充実すれば、日本に生まれた全ての子どもに対して、真に平等な補助システムがやっと整うこととなります。私立幼稚園の公的役割は、今後ますます重要度が増してくるものと考えます。

国民の視線が幼児教育に集まれば、幼児教育の質の向上が重要な課題となってきます。幼児教育に対して公的資金が投入されればされるほど、その質の向上事業は注目を集めます。本機構では、幼稚園が公開保育を実施することを通して、質が向上する評価システムを提案しています。評価は、各園がすでに実施している“自己評価”が根底に置かれなければなりません。自己評価を活用し、それぞれの園が重要と考える課題を、公開保育を通してより深めた議論をすることによって、自己評価の内容に対して他者の視点を導入し、より深い内容の保育へ変化することが質の向上には必要であると考えています。公開保育コーディネーターはその補助をする役割を担うのであって、参加者の全ての意見が質の向上への重要なアドバイスなのです。ただ、その場合、第一に尊重されなければならないのは私学の建学の精神であって、その精神の深化が重要になってくるのです。質の評価によって、保育内容の均質化が行われることのないよう、十分な配慮が必要です。私学としての質の向上とは何かを問い続けていきたいと考えています。

(京都府京都市・光明幼稚園)

委員会委員長・委員構成など議決

6月10日、東京・私学会館において常任理事会が開催され、29人が出席しました。

香川敬会長のあいさつの後、議長に村山十五副会長、議事録署名人に内野光裕常任理事、森迫建博常任理事が選任されました。

■審議案件（1）：委員会委員長選任の件

香川会長より各委員会委員長に、総務・田中辰夫氏（石川）、政策・坪井久也氏（香川）、教育研究・宮下友美恵氏（静岡）、経営研究・尾上正史氏（福岡）、広報・四ツ釜雅彦氏（埼玉）、102条園・溝渕真澄氏（神奈川）、認定こども園・橋本幸雄氏（茨城）の先生方への任命の提案があり、提案通り議決しました。

■審議案件（2）：委員会委員構成・決定の件

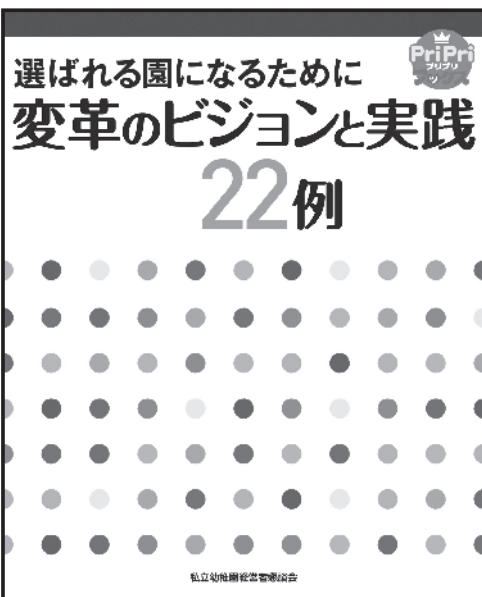
各地域の報告による委員会委員候補者一覧をもとに、各委員会委員候補者が提案されました。地域ご



とに委員の調整を行い、各委員長から委員の推薦が行われ構成員が議決されました。

■審議案件（3）：顧問委嘱の件

全日私幼連前会長の吉田敬岳氏に全日私幼連の顧問を委嘱する旨の提案があり、提案通り議決されま



こども園への移行？ 0・1・2歳児保育を導入？ 保育の質の向上は？

選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践22例～

保育施設の未来がこの本に！

保育施設の“機能と質”を考える。
22園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇談会・著
248ページ／税込4,320円
世界文化社刊／4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部
TEL：03-3262-5128 FAX:03-3262-6121

した。

■審議案件（4）：（仮称）組織改革検討会・設置の件

田中総務委員長より「（仮称）組織改革検討会について」の会議の設置について提案があり、提案通り議決しました。その後、委員は各地区から1名選出する等委員の構成方法について説明があった後議決されました。

■報告案件（1）：熊本地震義捐金の件

園尾憲一副会長より九州地区として義捐金に対する御礼の報告がありました。

■報告案件（2）：専務理事の件

鈴木専務理事より退任の挨拶があり、後任に岩田知也氏が就任する旨の報告がありました。

■報告案件（3）：今後の会務運営の件

尾上経営研究委員長より平成28年度経営実態調査実施について、また橋本認定こども園委員長より認定こども園委員会アンケートについて報告がありました。

最後に安家周一（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構副理事長より、機構の活動状況などの報告がありました。

園尾副会長より閉会の言葉があり終了しました。

（総務委員長・田中辰実）

岩田知也氏が専務理事に

全日私幼連の鈴木良一専務理事が、6月30日をもって退任されました。後任の専務理事には、岩田知也氏が就任されました。



岩田知也（いわた・ともや）

昭和32年生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省へ入省。福岡県地方課、消防庁消防課、自治省府県税課、千葉県情報管理課長、同税務課長、自治省情報管理官付課長補佐、山口県商政課長、同財政課長、中小企業庁小売商業企画官、松山市助役、全国市長会事務局次長、内閣府参事官（災害応急対策担当）、総務省高度通信網振興課長、地方職員共済組合事務局長、消防庁消防大学校長などを歴任。平成21年退官後、（財）日本消防協会常務理事、（一財）道路管理センター常務理事などを務める。

新刊 アイデアいっぱい！
季節&行事の製作あそび

季節を感じて 作って楽しむ！

ポット編集部 編
定価1,944円(税込)
26×21cm/96ページ
発行・発売 チャイルド本社

こいのぼり製作をはじめ、七夕、いも掘り、作品展、クリスマスなど、幼稚園や保育園で欠かせない、季節と行事の楽しい製作のアイデアがいっぱい！
製作活動の目安となる年齢表示付きです。

全日本私立幼稚園連合会 常任理事会構成員一覧

(平成 28 年 7 月 1 日現在)

職名	氏名	幼稚園
会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 専務理事	香川 敬 北條 泰雅 澤田 豊 村山 十五 小澤 俊通 田中 雅道 園尾 憲一 岩田 知也	山 口・鞠生 東 京・みなと 北海道・すみれ文化 宮 城・村山学園 神奈川・厚木田園 京 都・光明 鹿 児 島・竹の子
北海道 東 北 埼 玉 東 京 神奈川 関 東 愛 知 東 海・北陸 大 阪 近 畿 中 国 四 国 福 岡 九 州	川 島 教孝 坂 本 洋 武 田 正廣 石 井 幸男 友 松 浩志 内 野 光裕 小 澤 俊通 原 徳明 小 島 宮子 前 田 邦光 水 田 泰賢 徳 本 達之 石 井 亮一 安 家 周一 松 下 瑞應 香 川 敬 宮 地 彌典 仁 保 一正 土 居 孝信 森 迫 建博	北海道・旭川あゆみ 岩 手・盛岡 秋 田・さかき 埼 玉・新和 東 京・神田寺 東 京・清瀬ゆりかご 神奈川・厚木田園 群 馬・長野 千 葉・岩木 新 潟・真人 愛 知・名古屋楠 福 井・第二早翠 岐 阜・合歡の木 大 阪・あけぼの 和歌山・湯浅 山 口・鞠生 高 知・杉の子 福 岡・あおば 大 分・双葉ヶ丘 宮 崎・富高
総務委員長 政策委員長 教育研究委員長 経営研究委員長 広報委員長 102条園委員長 認定こども園委員長	田中 辰実 坪井 久也 宮下友美恵 尾上 正史 四ツ金雅彦 溝渕 真澄 橋本 幸雄	石 川・ちよの 香 川・やしま 静 岡・静岡豊田 福 岡・紅葉 埼 玉・菖蒲 神奈川・誠心第一 茨 城・栄
監 事 監 事 監 事	高橋 恵史 伊藤 夏夫 坪内 朋子	山 形・まつかわ 神奈川・丸山 島 根・育英

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは 0120-833-415
フリーダイヤル

園ぴゅう太のメールサービス

らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

ぜ〜んが学研に おまかせ!!

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画!

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

私学事業団からのお知らせ

健康診断の結果の提出をお願いします

今年度の特定健康診査等のご案内は、6月下旬に送付しました。事業団では健康診断の結果により、個別の健康情報誌「QUPiO（クピオ）」を送付します。また、生活習慣病のリスクのある方には、生活習慣改善応援プログラムとして「特定保健指導の利用券（費用無料）」を送付します。皆様の健康を守るためにも、ぜひ健康診断の結果の提出にご協力をお願いします。

健診結果の
第1回提出期限は、
9月30日です。

健康診断を
受けました!!



幼稚園で実施した健康診断の結果（加入者分*）を事業団に提出してください。



冊子「QUPiO（クピオ）」であなたの結果内容に合った健康情報をアドバイス

* 事業団への結果の提出は加入者分のみです。
被扶養者分は、受診した医療機関から事業団へ報告されます。

相談料無料

メンタルヘルス等相談サービス

私学事業団健康相談ダイヤル

心と体のさまざまなご相談に医師・保健師・助産師・看護師などがお応えします。

対象者：加入者（任意継続加入者を含む）とそのご家族及び75歳以上の教職員

健康相談

メンタルヘルス相談

医療相談

育児・介護相談

通話料
無料

0120-24-7831

24時間
年中無休

WebカウンセリングURL
<https://t-pec.jp/websoudan/>

ユーザー名：shigaku
パスワード：247831

電話・面談・Webによるメンタルヘルスカウンセリングも行っています（面談は、年度内5回まで無料）。

通話料無料 **0120-36-8102** セカンドオピニオン相談 月曜日～土曜日 午前9時～午後6時
プライバシー保護を厳守しておりますので、安心してご利用ください。

日本私立学校振興・共済事業団
福祉部 保健課 健康管理係・保健係

〒113-8441 東京都文京区湯島1-7-5
電話 03 (3813) 5321 (代表)
FAX 03 (3812) 8775

次代を担う子どものために～幼児教育の振興に向けて～

幼児教育振興法の早期制定、幼児教育の無償化等を願い盛大に開催



▲多くの来賓を迎え盛大に開催された

6月13日、午後1時から東京・ホテルニューオータニにおいて、全日本私立幼稚園PTA連合会（河村建夫会長）の第31回PTA全国大会が開催されました。「次代を担う子どものために～幼児教育の振興に向けて～」を大会テーマに、全国各地から保護者代表、幼稚園関係者など約1,200人が参加しました。

本会では高村正彦自由民主党副総裁、馳浩文部科学大臣、中曽根弘文自由民主党幼児教育議員連盟会長、山谷えり子自由民主党幼児教育議員連盟事務局次長がご臨席され、PTA連合会からは河村建夫衆議院議員（全日私幼P連会長）、遠藤利明衆議院議員（全日私幼P連副会長、東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣）が出席され、衆議院、参議院合わせて約100名の国会議員ご臨席のもと、盛大に開催されました。

第1部の大会式典は、遠藤利明全日私幼P連副会長の開会あいさつの後、河村建夫全日私幼P連会長があいさつをされ、続いて全日私幼連の香川敬会長があいさつをされました。

来賓祝辞では、安倍晋三内閣総理大臣のメッセー

ジを高村自民党副総裁が代読され、続いて高村自民党副総裁からご祝辞をいただきました。また、馳浩文部科学大臣、中曽根弘文幼児教育議員連盟会長、山谷えり子幼児教育議員連盟事務局次長からご祝辞をいただきました。

来賓紹介では、井原巧参議院議員、自由民主党幼児教育振興法検討チーム事務局長から出席された来賓の国会議員一人ひとりのご紹介が行われました。

最後に、月本喜久全日私幼P連副会長から今大会の大会宣言案が読み上げられ、満場一致で採択されました。

岡澤邦幸全日私幼P連副会長の閉会のことばで第1部の式典が終了しました。

第2部の記念講演では、明治大学文学部教授の齋藤孝先生より「絵本の読み聞かせが子どもの“遊ぶ力”を育む」をテーマにお話いただきました。

大会の最後に、ピアノ・広中舞さん、ヴァイオリン・瀬川祥子さん、竹原奈津さんによる「こどもがまんなかプロジェクト・クラシックコンサート」が行われ、盛会のうちに会を終了しました。



河村建夫氏
全日私幼P連会長、
衆議院議員



高村正彦氏
自由民主党副総裁、
衆議院議員



馳浩氏
文部科学大臣、
衆議院議員



中曽根弘文
自由民主党幼児教育議員
連盟会長、参議院議員



遠藤利明氏
全日私幼P連副会長、
衆議院議員



山谷えり子氏
自由民主党幼児教育議員
連盟事務局次長、参議院議員



井原巧氏
自由民主党幼児教育振興法検討
チーム事務局長、参議院議員



香川敬氏
全日私幼連会長



▲齋藤孝氏 明治大学文学部教授



▲こどもがまんなかプロジェクト・クラシックコンサート

宣 言

私たちは、次代を担う子どもたちが心豊かな人間として成長することを願い、子どもたちにとっての最善の利益を実現するため、家庭教育の向上、幼児教育の振興を図ることを目的として、子どもたちがはじめて出会う学校である私立幼稚園・認定こども園と手を携え、常に努力することを宣言します。

一、私たちは、子どもたちの教育の原点が、家庭にあることを再認識し、家族が協力し合って絆を深め、家庭が子どもにとって最も安心でき、共に学び合える場になるよう努めます。

一、私たちは、心豊かな子どもを育むために、私立幼稚園・認定こども園の教育をとおして、子ども

とともに「生きる力」を学び合い、自らの人格向上の研鑽に努めます。

- 一、私たちは、地域の人々との絆を深め、心一つにして、災害や環境汚染あるいは犯罪から生命を守り、安全が確保され、安心して暮らすことのできる地域社会づくりの支援に努めます。
- 一、私たちは、「幼児教育振興法」の制定へ向けての運動を積極的に展開します。

平成 28 年 6 月 13 日
第 31 回全日本私立幼稚園 P T A 連合会 全国大会

★ 6月3日

公開保育コーディネーター養成講座開かれる

東京・砂防会館

6月3日、東京・千代田区の砂防会館において、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催の「公開保育コーディネーター養成講座」が開催されました。今回の養成講座では49名の先生方が受講しました。初めに、田中雅道(公財)全日私幼研究機構理事長の開会の挨拶があり、養成講座がはじまりました。

養成講座の概要は次の通りです。

○オリエンテーション

- ・趣旨説明
- ・公開保育を活用した評価の流れの概要

講師：(公財)全日私幼研究機構研究研修委員長
安達 譲

○グループワーク

講師：(公財)全日私幼研究機構研究研修委員会協力委員 秦賢志



▲岡健大妻女子大学教授

○事前講義

- ・講師：大妻女子大学家政学部児童学科教授 岡健

最後に、安達研究研修委員長よりあいさつがあり閉会となりました。

秋田喜代美先生の3部作

各巻B6上製
定価：本体
1,200円(税別)

L66600

保育の心もち
秋田 喜代美

保育の心もち

保育に携わる姿勢・「心もち」をさまざまな視点からわかりやすく解説。すべての保育者のための日めくりカレンダーのような優しい本です。

L66900

保育のおもむき
秋田 喜代美

保育のおもむき

何気ない保育の場面や子どものようすから、筆者が心動かされたことや、環境を通して行なう教育としての日本の保育の良さ、それぞれの園がもたらす「おもむき」を味わえる。保育に携わるすべての人の心に響くコラム集です。

L65800

保育のみらい
秋田 喜代美

保育のみらい

保育制度改革の真の意味を問う書き下ろしを含む、いつもの保育にプラスになる珠玉のアンソロジー！ 保育の大切さが伝わる、読みやすくまとめられた日本教育新聞他の連載を中心に単行本化したものです。

ひかりのくに株式会社 本社 / 〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社 / 〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

テーマ：保護者の心を開く特別支援について

福岡県 ときわ幼稚園 鳥越奈々子

テーマについて

近年、特別な配慮を要する子、気になる子が増加傾向にある状況。当園も例外ではない。行動、発達段階に於いて、どの様に対応したらよいか、担任としてや園全体としての課題となっている。加えて、子ども同様子どもを最も身近で支えている『保護者』への関わりを重要課題として捉え、日々の保育を実践している。今回は、特に『保護者に対する支援』について、事例を元に、課題も交えながら実践報告させて頂いた。

事例 A～C

A：途中入園の年長男児への関わり

B：入園前に自閉症と診断された年長男児への関わり

C：入園当初から気になる面が多かった女児への関わり

それぞれに子どもの様子も違えば、保護者の思いも違うので、難しかった点や、保護者対応の躓き、担任として、子どもへどう関わったかを発表させて頂いた。

A→4月当初は、男児の一瞬の行動を問題行動として捉えてしまい、保育者の主観でありのままを保護者に伝えてしまう。子どもをよく観察することの大切さ、保護者への配慮の仕方を反省し、関わりを変えていくと、悩みを悩みとして打ち明けてくれるようになった。

B→男児に対しては、園全体で見守る体制をとり、男児の行動を出来るだけ理解しながら配慮し、日々過ごすよう努めてきた。保護者支援の面で考えると、果たして保護者の本当の気持ちや、不安を受け止められたか？という疑問が残った。

C→女児の日々の様子をまずはよく観察し、どの様な対応がいいか考えていった。こだわりが強く、行動を抑制されるとパニックを繰り返す。保護者と少しずつ信頼関係を築いていきながら、園長とも相談し、時期が来てから専門機関への促しを行った。以上の事例から大切なことを次にまとめている。

子どもへのアプローチで大切なこと

- ・子どもの本質を見極める力、洞察力が必要。
- ・一瞬の行動だけで判断しない。他の職員の視点で見てもらう機会を作る。
- ・細かい変化や支援の仕方の記録をとる。
- ・障がいの有無ではなく、何が得意で何が不得意かをよく観察した上で、その子に合った対応を。

保護者へのアプローチで大切なこと

- ・どんな保護者も不安が根本にあるという事に気づき、対応していく。
- ・信頼関係を築く為にはどうしたらいいかを考える（日々の関わり方、様子をどう伝えていくか）
- ・保護者が子どもの障がいを受け入れている場合受け入れていない場合、グレーゾーンで悩んでいる場合、それぞれによって支援の仕方も変わってくるのできちんと対応する事が大切になるであろう。

保育者の役割

- ・園全体で特別な配慮を要する子を把握し、担任が一人で抱え込まず、見守る体制をとる。
 - ・様子次第では、専門機関への促しになるが、それだけが目的にならないようにする。
 - ・特別支援に関する研修に積極的に参加し、療育施設や小学校との連携もとるようにする。
- 今回、保護者の心を開く特別支援というテーマで発表させて頂いたが、子ども達一人ひとり違えば保護者の思いも違うので、難しい部分もある。少しでも気持ちを理解していく事が大切なのだろうと感じる。色々な子ども達がいて、お互いに育っているという事を大事に考え、可能な限り入園を受け入れるようにしている。保護者対応も引き続き私自身の課題である。出来る事を精一杯やっていきたい。

幼児期における運動遊びの重要性

～震災前と震災後の遊びの変化、幼児期に今、何が必要か～

○今泉 千佳子（学校法人尚志学園尚志緑ヶ丘幼稚園）

○中村 和彦（山梨大学教育人間科学部長 山梨大学大学院教育学研究科長）

1、はじめに

尚志緑ヶ丘幼稚園は、健康教育を特色教育として①薄着教育②自園給食③マラソン④正座（心の教育）を取り入れている。ところが、2011年発生の東日本大震災により戸外遊びができなくなり、遊びだけではなく日常生活そのものが一変した。そこで、震災後全く戸外遊びができず、屋内遊びだけをしてきた子どもたちの体力低下や肥満傾向の改善と向上を目指し、共同研究者と共に研究に取り組んだ。

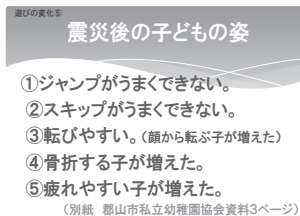


の物を食べさせない。②牛乳を飲ませない。③水道水を飲ませない。の回答が多かった。保護者の不安を取り除くために平成24年12月より【食品放射性物質測定器】を導入し、県外産の検査済みの給食、おやつ食材を仕入れ、さらに調理前にも測定器による再検査を行い、二重の検査による安心安全な自園給食を提供する事になる。又、放射性物質を体に溜まらないようにするために、海藻類や魚類を多く含むメニューを工夫したり、大豆製品を多く取り入れている。



2、震災発生で変化した環境

平成23年3月11日（金）午後2時46分に東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所1号機水素爆発。震災前と震災後の園生活における約束事が逆転した。①震災前は走ってはいけなかった廊下で直線に走る活動を行う。②秋の自然物には、放射能数値が高い為に触れてはいけない。③鉄棒、マット、なわとび等の運動遊びを保育室で行う。さらに、震災後2年目を迎えた頃から体力低下、肥満傾向の2つの新たな課題が出てきた為、食生活と運動面の両方から、健康教育の見直しをした。



3、震災後の食生活の変化

放射能に対する意識調査をするためにアンケートを実施した。すると、①福島産

4、共同研究者中村和彦先生との出会い

平成23年に郡山市の子どもたちの心と体の健やかな育ちを見守る事業『郡山市震災後こどものケアプロジェクト』がスタートした。中村先生が研究委員となり、『郡山市版幼児期運動実践プログラム』が作成され、本園が郡山市幼児期運動指針実践調査の対象園となった。調査の1つとして戸外遊びに制限があった震災後3年目の平成25年度と制限が解除された震災後5年目の平成27年度に万歩計測定を実施した。結果は、平成27年度の方が歩数が減少していた。要因として、当時の運動遊びは、園庭に出ても、走ることはできなかったが、現在は、砂遊びや固定遊具などで遊ぶ事が出来ているから

歩数が減少したと考えられる。

5、平成27年度の運動あそびの目標

①体力増進

②多様な運動能力の獲得

平成23年12月に園庭表土除去（除染）、平成26年9月に固定遊具の入れ替えと砂場の再開により震災前と同様の園庭の環境が整い、平成27年4月から安心安全な環境の中での戸外遊びがスタートした。

『36の基本の動き』

について全教職員が共通理解をするために、中村和彦先生の運動実技講習会に参加し、園内研修を実施して、教育計画の見直しを進めている。砂遊び・走りっ子・バランス遊び・ボール遊び等子どもがのめり込んで遊べる環境作りに取り組んでいる。



『36の基本の動き』について全教職員が共通理解をするために、中村和彦先生の運動実技講習会に参加し、園内研修を実施して、教育計画の見直しを進めている。砂遊び・走りっ子・バランス遊び・ボール遊び等子どもがのめり込んで遊べる環境作りに取り組んでいる。

6、色々な運動遊びを体験できるのは、今しかない！

運動遊びが楽しいと思える子は、その楽しさを体で感じているから将来、運動能力が伸びる子に育つ。幼児期の遊びは、夢中になって遊び込む事が大事である。主体性・自主性を持って遊ぶ事で心も体も育つ。自己肯定感を認めてあげることで、子どもたちは、のめり込んで遊ぶことができる。幼児期の運動遊びを通して心や体を育てることが、生涯にわたる『健康で幸せな生活に繋がること』という目標を園と家庭で共有していく努力を続けていきたい。

7、幼児期における運動遊びの今後の課題

幼児期における運動遊びの重要性を保育

実践に活かすために①保育者がプレイヤーとしての力量を伸ばしていくこと。②創意工夫をこらした環境設定をすること。③保護者の運動遊びへの意識改革に取り組むこと。④地域の方との交流会などを通して地域の方からの支えも大切にすること。一つ一つの運動遊びの中には、ねらいがあり、運動機能を高めていく為に、保育者自身が、園児一人一人の力を伸ばす。その為の研究を深めて行くことが大切である。『その子ができることを、もっとできるように』という気持ちでサポートしたり、園から家庭に親子で楽しめる運動遊びの発信に取り組む。その一環として、親子体操を園で実施している。

8、まとめ

最後に、東日本大震災と福島第一原子力発電所1号機水素爆発が起きたことにより戸外遊びができない保育環境と向き合いながらたくさんの努力と工夫をしてきた。しかし、放射能問題と遭遇したからこそ中村和彦先生との出会いがあり、教育の見直しの大きな原動力となった。当時は、無我夢中であつたが、震災5年目を迎えた今、「震災をきっかけに、運動あそびの重要性を再認識できた」と前向きに捉える事にした。この震災の経験を活かし、本園の健康教育の『丈夫な体と心作り』を目指して、規則正しい生活習慣を身に付けさせ、体の内面からの健康作りに取り組んでいきたい。



保育者の「その子」らしさを育む子ども理解の視点

—5歳児の個と集団の姿をとらえる子ども理解の変容に焦点をあてて—

吉田 美紀 (いわき短期大学附属幼稚園) 鈴木 まゆみ (いわき短期大学)

1. 研究の目的

本研究は、附属幼稚園のこれまでの教育的取り組みを基盤に、今、目の前にいる子どもを深く理解するための「保育者の『その子』らしさを育む子ども理解の視点」を5歳児の個と集団の姿をとらえる子ども理解の変容に焦点をあてて分析することを目的とする。

2. 研究の方法

(1) 調査対象

5歳児T君 (3年保育)

T君は、年少時は落ち着きがなくこだわりも強い姿が印象的であり、どちらかという自分のやりたい活動に取り組むことが多かった。しかし、年中組に進級しお兄さんになったという気持ちが芽生えたからか、少しずつ集団での活動にも取り組むことができ始めた。年長組になってからは、友だちとのつながりを求める姿もみられるようになった。

(2) 調査時期

2015年4月～2017年7月

(3) 調査方法

5歳児T君の育ちを事例として取り上げ、エピソード記述法による活動記録や写真、動画映像を通して子ども理解のあり方を考察した。

担任(保育歴6年目)は、年中組(2015年4月)より担任となり持ち上がりで年長組も担当している。そのため、年中組でのかかわりをふまえ、年長組での4~7月の事例の記録を中心に考察していく。また、子ども理解の視点が、保育者の「その子」らしさを育むための援助にどのような影響を与えていったのかについて、共同研究者の子ども理解についての研究をたたき台として分析する。

3. 結果と考察

(1) 事例1「せんせいみんなにみせて」

■ 背景 ■

これまでは、年長さんが作ってくれた巧技台サーキッ

トで楽しく遊んでいた子どもたちであったが、担任は、年長組になったことをきっかけに、自分たちでサーキットを作ろうと提案をしてみた。

T君は地図作りが好きで、宝探しの遊びの中では、幼稚園や裏庭の地図を描いては保育者や友達に見せていた。

■ エピソード ■

担任は、クラスの子どもたちに、「お遊戯室で年中組の子どもたちでも楽しめるようなサーキットを作ろう」と投げかけてみた。危険のないよう保育者も子どもたちと一緒にサーキット作りに取り組んだ。

T君は、他の子どもたちが黙々とサーキット作りに取り組んでいる時、保育室に戻り、あっという間にサーキットの設計図のようなものを書いて帰ってきた。その地図には、梯子の位置と滑り台の位置が描かれてあり、T君には、この地図をもとにサーキットを作ってみようという勧めが、自分では友達に声をかけることができない。

担任は、T君の描いた地図に興味を持ってもらえる子どもがいたら思い、子どもたち全体に「みんなT君が地図持ってきてくれたよ」と声をかけてみることにした。

すると、その場にいた子どもたちが一斉に集まってきて、T君の描いた地図に関心が集まり、地図のようにサーキットを作

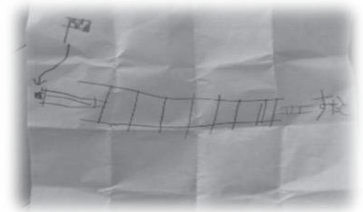


写真1. 「T君が描いた地図」

てみようという子どもたちが増えていった。T君は、サーキット作りは手伝わず、友達にどのように作ったらいいのかを指示していた。T君は、サーキットが自分の地図のイメージに近づくと「いいね!」と言い、とても喜んでいました。

■ 考察 ■

子どもたちが自分たちで考えようと巧技台を運んでいた場面で保育者が投げかけた一言は、T君(個)の立場に立った援助であった。その場を共有してサーキットを作

ろうとしていた子どもたち(集団)の視点に立つと、果たしてそれで良かったのだろうか？

今回は、T君のアイデアを認めつつもT君の代弁はせず「自分で伝えてごらん？」と返答し、T君と他の子どもたち、両者の動きに寄り添った対応を考えることが必要と思われた。

(2) 事例2「あれ、今日はおかしいぞ！！」

■ 背景 ■

事例1の翌日であるため、背景は事例1を参照。

■ エピソード ■

子どもたちに、「今日も巧技台を使ってみんなでサーキットを作ろう！」と言葉がけし、遊戯室へ移動した。子どもたちは、昨日の流れもあり意欲的にサーキット作りの活動を始めた。担任が、「次はどうしよう？」とその場にいた子どもたちに声をかけると、T君は保育室に戻り、またサーキットの地図を描くと、遊戯室の担任に昨日のようにみんなに伝えてほしいようだった。しかし担任は、「今日は自分で友達に伝えてごらん」と返答しT君がどのように行動するのか様子を見守ることにした。すると、T君は子どもたちに「これみて」と近寄っていったが、多くの子どもたちは巧技台を運ぶことに夢中で、T君の地図には目もくれない状況であった。T君はそれから、みんなが作っている様子を傍観していた。

■ 考察 ■

保育者がT君の設計図を子どもたちに見せていたら、昨日と同じような展開になったことが予想された。しかし、自分の構想でサーキットを作りたい子どもにとっては納得のいかない展開になっていただろう。

このことから、保育者の援助は、目の前に広がる状況を捉えて子どもの育ちの見通しを待ち、援助の時期を選択することが大切なのではないかと考えられる。特に、子どもに向けて、その見通しの姿勢を伝えるために投げかけた保育者の言葉は、今回の地図の取り扱いに見るように、活動の方向性に大きな影響を与えている。

T君は、地図がみんなにうまく伝えられずがっかりはしたが、「いつか、自分の力で他の子どもたちに地図のことが伝えられるといいな」という願いを持つこともできたのではないだろうか。T君にとっては、コミュニケーションの必要性を知る大切な育ちの機会でもあったと考える。

(3) 共同研究者と共に

今回のサーキット作りの考察から、T君らしさを大切にそれまでかかわってきた担当保育者の援助は、T君の育ちに追いついていない、ずれたものであることに気づくことができた。そして、本当の「そのらしさ」とは、このようなプロセスの経験の先に育つものなのではないかと考えられる。

共同研究者の子ども理解の研究¹をたたき台として、事例1・2の担当保育者の子ども理解を分析すると、4つのプロセスにおいて変容が見られた。

①子ども理解を深める変容プロセス初期

「子ども理解の課題の意識化」

→事例1の考察において援助の課題を意識化

②子ども理解を深める変容プロセス中期

「子ども理解の課題の焦点化」

→事例1の考察において更新されるT君の発達の姿

③子ども理解を深める変容プロセス後期I

「子ども理解の枠組みの変容」

→事例2の考察においてT君への援助の前景化と背景化による子ども理解の枠組みの変容

④子ども理解を深める変容プロセス後期II

子ども理解の深まり

→T君の子ども理解の変容の深まりが他の子どもたちの理解の変容へもつながり循環

(4) 研究の分析を実践に活かすために

「その子」らしさとは、子どもの育ちの中で変わっていくものである。保育者の視点もその育ちに合わせて変容していかなければ子どもとのずれが生じてくるのが本研究より分析された。また、子ども理解変容プロセスの循環が保育の実践の中で活かされるためには、後期I「子ども理解の枠組みの変容」から後期II「子ども理解の深まりへの変容」への移行の中で、「援助の前景化と背景化」による子ども理解の枠組みの変容¹が大きなポイントとして浮上した。

しかし、現実的には、その援助の時期が正しいかどうかは手探りであり、保育者は自己の中で「援助の前景化と背景化」を繰り返しながら、いつの時期にどのように子ども理解の枠組みを変えていけばいいのかを選択する必要があると考えられる。

今後、継続して子ども理解を深めるための事例分析を進め、「その子」らしさにふさわしい子ども理解の視点と援助のありかたについて研究していきたい。

¹ 鈴木まゆみ (2014) 保育者の子ども理解変容プロセス

素材の使い方から見る発達や特性

ーペットボトルを子どもはどう使う?ー

○安達 まどか(宮前幼稚園) 高橋 貢(宮前幼稚園)

山口 彩香(宮前幼稚園) 和田 恵美(宮前幼稚園)

宮前幼稚園の発達の捉え方

本園では子どもの1年間の発達を5つに区分し、その時期の子どもの姿からねらいや関わりを考えている。今回の研究を行ったのはⅡ期の自己発揮期と呼ばれる時期であり、その中には以下のようなねらいが含まれる。



年少：いろいろな感触あそびを楽しむ。

年中：身近な素材に触れて楽しむ。

年長：自分なりに工夫したり挑戦したりして思う存分あそぶ。(宮前幼稚園 教育課程より抜粋)

本研究のねらい

本園では廃材(空き箱、トイレットペーパーの芯、カップなど)を“素材”と呼び子どもがあそびの中で自由に使えるよう提供している。子どもたちは素材を組み合わせて自分のイメージした物(車や動物など)を作ったり、虫カゴや砂場の型抜きなどの代わりにして使ったり、あそびのアイテムとして使っている。そこで今回、普段は提供していないペットボトルを3歳、4歳、5歳の子どもたちに出した時にどのようにあそびの中に取り入れていくかを観察し、そこから子どもの発達や特性について考察することにした。

設定方法

- ・期間：5月中旬から1学期終了まで。
- ・他の素材と同様に素材の一部として設定した。
- ・500ml、ミニペットボトルを切った物、そのままの形の物を提供。安全に配慮し、切った物には切り口にテープを貼っている。

***年齢ごとの違いがわかりやすいよう、同じ条件でペットボトルを子どもにも提供した。**

年少児

設定当初は水の中に投入してみたり、その水を流してみたり、砂の中に投入して音を楽しんだり



と、感覚的に心ゆくまでペットボトルという素材を楽しんでいた。この時期あそびの世界に浸れるよう、保育者はその様子を見守りながら、繰り返しあそべる環境を整えていった。繰り返しあそぶ中で“水を入れられるもの”という性質も、3歳児なりに体で学んでいるのだと思う。

5月後半になると感覚的に繰り返し楽しむ中で興味が広がってきたようで、素材あそびの中でペットボトル同士やペットボトルと他の素材をテープでくっつけること自体を楽しむ姿が見られるようになる。

6月後半になると500ml ペットボトルの中に様々な色の画用紙や梱包材などを入れ、ジュースに見立ててあそぶ姿が見られるようになった。そうしてあそぶ中で水の中で素材がゆっくり動く様子や色が混ざる様子をじっと見つめ、視覚的に楽しんでいる姿も見られた。

年中児

年中児はペットボトルの中に水と豆やストロー等の素材と一緒に入れ、水の中だと素材の動きがゆっくりになる不思議さを感じていたり、様々な形に切ったペットボトルをパズルのように組み合わせ、セロテープやガムテープを用いて元の形に戻そうとしたりする姿が見られた。そしてできたペットボトルに水を入れてみるが、どうしても水が漏れてしまい、試行錯誤する姿が見られた。

数日間同じ設定を続けたが、子どものあそびの姿に変化

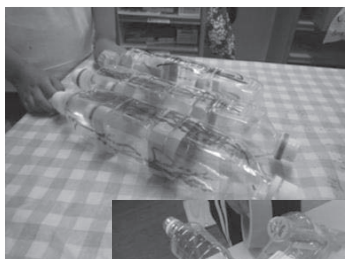
が見られなかった。そのためペットボトルを出さず、創造の幅を広げられるよう、他の素材にたっぷりと触れられる期間を作り、6月の初めから再び当初と同じようにペットボトルを設定するが、また同じパズル合わせのように元の形に戻そうとする姿が見られた。そこで専用のペットボトルコーナーに設定方法を変え、ペットボトルにプラスして組み合わせやすい油性マジックと、カラフルなカラーセロファンを一緒に用意した。

6月後半になるとコーナーとして設定したことで、ペットボトルに色を塗ったり、セロファンを貼り付けたり、ペットボトル同士を組み合わせで見立てて遊んだり、ペットボトルの使い方に変化が見られた。



年長児

年長児は年少年中での素材あそびの経験から、様々な自分なりの工夫をしながらあそびを楽しんでいた。ペットボトルの尖った形から新幹線や飛行機をイメージしてペットボトルを組み合わせ、さらにマジックで色を塗ったり他の素材の中に入れてたりと、透明という性質を理解しそれを活かす姿が見られる。またペットボトルでいろいろと試している中で、口の部分が狭くなっているために中の物が取り出しづらいことに気づき、その特徴を活かして虫かごを作ることを思いつく姿もあった。



まとめ

本研究を通し、3歳4歳5歳の子どもたちがそれぞれ違った形でペットボトルをあそびの中に取り入れていく姿を観察することができた。

3歳児はペットボトルに何度も繰り返して水や物を入れたり、入れた時の音を聞いたり、ペットボトルを振った時に中の物が動く様子を見たりする姿が見られた。このことから3歳児は同じことを繰り返し行い、感覚的にあそびを通してペットボトルの性質を学んでいったのではないかと考える。

4歳児は半分にしたペットボトルを元の形に戻して中に水や物を入れようとする姿が見られた。このことから4歳児は3歳児でたくさんのことを経験し学んだからこそ物の性質や「ペットボトルはこうやって使うものなんだ!」という秩序にこだわっていた。その姿を認めつつ、さらに視野を広げられるように環境を通して関わりかけをすることも大切になってくるのではないかと考える。

5歳児は切ったペットボトルの形から飛行機や新幹線などをイメージし目的を持って作ろうとする姿や、その中で輪ゴムを使ったり色を塗ったりと自分なりにこだわりを持って工夫しようとする姿が見られた。このことから、5歳児は3歳4歳のときの経験から様々なものを作ることができ、そのできるといところから自信が育ったことでさらに自分なりの工夫をしてよりいいものを作ろうと挑戦するのではないかと考える。本研究を行う中で改めて子どもの姿をじっくり観察してみると、子どもがあそびのどこに楽しさを感じているのか、どのようなところにこだわりを持っているのかということに気付くことができた。また3歳4歳5歳で違った姿が見られたことで子どもが成長していくことのおもしろさを感じることもできた。

本研究を活かし、引き続き子どもの姿を丁寧にとらえ必要な援助や関わりを方法も含め考えていきたい。

(公財) 全日私幼研究機構・第6回幼児教育実践学会
放射能災害下における保育実践と子どもの育ち
～A子の泥だんごが教えてくれたもの～

○川上 むつみ (大槻中央幼稚園) 根本 頼子 (大槻中央幼稚園)

I. 研究の目的

3. 11 東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故における放射能被害は保育環境を一変させた。事故後4年を経過した今、戸外での活動が制限された環境などは子どもの生活にどのような変化をもたらしたか、また、保育者は何を考え何を選択し、実践してきたのかを振り返り、5年目の目指すべき方向を探る。

II. 研究の方法

放射能汚染による最大の被害は子どもたちが環境汚染による健康被害と外での活動を制限されたことである。制限された環境が子どもたちに及ぼす影響は多岐に渡るが、その中で「5歳女児A子」の泥だんご作りを取り上げ、

- 1、環境の変化と子どもの生活
- 2、環境の変化に対応した保育者の実践と子どもの育ち

について考察し、目指すべき方向を探ることとした。

III. 環境の変化に対応した保育者の実践事例と結果

「5歳女児A子」の泥だんご作りの経過から保育者の事例をあげてみる。

震災以降、3年間園での砂遊びは行わなかった。A子は2013年4月に年中組(4歳)に入園したので、2014年5月から再開した砂遊びは誰一人園での砂遊びの経験者がいないことになる。このような園環境の中で、A子(5歳児年長)が震災前に行っていた「ぴかぴかの泥だんご」を作り上げていく、「泥だんご」復活の過程を追ってみた。

『本当に触っていいの?』 (5月)

A子の姿

- ・5月からスタートした砂遊び、家庭で経験している子も少なく、初めて砂に触れる子もいた。A子も「本当に触っていいの?」と尋ねながらの砂遊びのスタートとなった。
- ・保育者たちは山作り・川作り・穴掘り・型抜き・だんご作り等、とにかく様々な遊び方を楽しんで見せた。

- ・A子も砂でいろいろな遊びをしていくが、中でも特に泥だんご作りに興味を持って遊んでいた。
- ・水加減や力加減が上手くいかず、すぐに形が崩れてしまいA子と一緒にだんご作りをしていた友だちも、他の遊びへと移行してしまった。しかし、A子はだんごが壊れても、何度も挑戦し根気強く作り続ける。



『固いだんごができたよ!』 (7月)

A子の姿

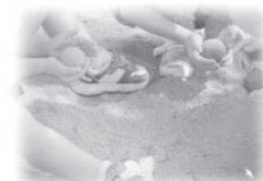
- ・何度も泥だんごを丸めることで、丁度良い水加減が分かるようになった。
- ・泥だんごが崩れないような握り方のコツをつかみ、固くて形の良いものが作れるようになった。



『ここの砂の方がいいよ!!』 (9月)

A子の姿

- ・水の含んだ泥だけでは、壊れやすいことに気づき、あたたかい砂や乾いた砂等いろいろな種類の砂をかけて握ってみる。



『すごい！A子ちゃんのだんごが光っている!!』

(10月～11月)

A子の姿

- ・白砂をかけて形を整えているうちに、表面が黒く光り出すことが分かり、手のひらや指を使って擦り始める。
- ・だんごが光ることが面白くなり磨き始め、時間をかけて仕上げていた。
- ・友だちや保育者から「すごい！A子ちゃんのだんごが光っている!!」と褒められ憧れを持たれていた。友だちも、A子と同じようなだんごを作ろうと、磨く様子を見たり、やり方を聞いたりして模倣し始めた。
- ・同年齢の友だちだけでなく、自ら年中・年少児にもだんごの作り方を教えたり、さらさらの砂の場所を教えたりし、意欲的に友だちとかかわって活動することができた。



IV. 「泥だんご」の復活

A子の5月からの泥だんご作りは保育者の予想を超えて「ピカピカの泥だんご」を完成させた。3年間の砂遊びをしていないブランクは「泥だんご作り」という従来、園内で年長者から年少者へと受け継がれてきたことから、復活するには、相当に保育者の力が必要と考えていた。ところが、A子は保育者の指導はあったにせよ、「光る泥だんご」にたどり着いたことに、子どもの持っている計り知れない能力に改めて驚かされた。

震災前も泥だんごの魅力は変わらず、年少児から年長児まで試行錯誤をしながら自分流のやり方で取り組んでいたが、A子の「泥だんご」作りの姿とは少し違っているように思えた。

- ・震災前の子どもの文化の姿は、年少・年中・年長と「泥だんご作り」が繋がっていく過程が見えている。
- ・年少から年中・年長へと成長するに従い、思考の仕方、想像の広がり、交流の幅が出ている。また、技術の伝承がある。
- ・交流の幅は、互いに競い合い、挑戦し合い、挫折やあきらめない気持ち、頼る、頼られる関係、

信頼などの感情が重層に織りなし、自己肯定感や自信の強さに結びついているように思われる。

- ・子どもの重層に織りなす活動や感情を保育者のかかわり方や、きめ細かい配慮によって、子どもの持っている様々な力が引き出せる。
- ・集団の力が発揮されている。

V. まとめ

砂遊びは震災後制限された環境にあったが、昨年度(26年度)より再開できた。従来年長児から年中・年少児へと受け継がれてきた泥だんご作りだったが、震災の影響で途絶えてしまった。しかしA子は、限られた時間(戸外遊び1時間)を有効に使い、室内活動のみでは補えなかった開放的な空間を得て、泥だんご作りをした。それを通して仲間と共に活動する楽しみを感じ、個人的興味から発した活動は共有されていった。A子個人にとっても時間・空間・仲間の三間がそろうことで、その力が発揮され、探索・発見、創意・工夫という能力が育っていった。この事例のように子ども自身の主体的遊の過程は、「泥だんご作り」の「再生」ではなく、「新生」として新たな子どもたちの文化になったと考えた方が良いと思われる。

生活環境の制限、変化により、一時途絶えた「泥だんご作り」は泥だんごのみならず、砂遊びの経験知の乏しい子どもによって開始された。しかし、先に示したように、継続されていた時期の活動の中での想像の広がり、緻密な相互作用に基づく安定感、周囲への信頼感や個人としての自信や充実感など子ども集団の持つ力強さの違いが痛切に感じられた。単に同じ活動が行われればよいのではなく、目に見えない、子ども同士が伝え合い支え合っている子ども自身の文化、心のつながりが子どもの内面を作っていることの重要性が確認された。

本事例のA子の「泥だんご作り」から、個の力を信じると共に個と集団の相互関係の意味を確認することができた。

5年目を迎えた今、足りないことに注目するのではなく、そこにいる子どもたちに寄り添い、個の育ちや能力を見極めると共に、子どもたちが自分たちで集団、文化を創りながら生活の場を作り上げているということを大切に見守り育て、次世代を担う子どもたちと共に新たな保育を作りたい。

「他者理解の心を育む取り組み」

原田 実香・石岡 美保・山田千枝子 幼保連携型認定こども園、御幸幼稚園・さくらんぼ保育園
辻 弘美 大阪樟蔭女子大学

本発表では、「他者理解のためのコミュニケーション活動」の研究知見を受け、発達段階に合わせた具体的な援助や保育活動を考案し実践することをねらいとした実践研究から、3歳児（年少）と4歳児（年中）クラスを対象とした教育実践を紹介する。

4歳児テーマ「クイズと自分絵本づくりを通して他者理解に基づくコミュニケーション力を育む」の背景

他者の思いを理解する力・自分の思いを表す力を育む為の取り組みとして、自分の思いや考えと、他者の思いや考えは異なるという事を遊びや活動の中で理解できるよう、年中2クラス（ばら・ゆり組）が、それぞれ下記の事に取り組んだ。

クイズ作りとクイズ大会の取り組み
クイズ作成段階



①「ウサギさんは何をしているのかな？」への子どもの考えを OHP シートに描く。(原画は、「Not a Box」Antoinette, Portis による)



②1人ひとり、自分の思いを描いた。Aさんの答えは、「ウサギさんはお風呂に入っていました」

クイズ大会

各自のクイズ作成活動を終えて、自分の考えと友達への考えの違いに気付くために、クイズ大会を実施した。年中2クラスでクイズ大会を2回に分けて行った。まず、子ども一人ずつ自分の描いたクイズ絵を掲げ、「何をしている所でしょうか？」と友達に問かける機会を設けた（話し手としての経験）。聞き手の経験としては、クイズの答えを考えて手を挙げて答えを言うことであった。このやり取りを繰り返す中で、友達の思いや考えを知り、それが自分とは違う事に気付くようにした。またこのクイズ大会に参加することで発表する力、考える力を養えるようにした。

クイズ大会中の振り返り

1回目にクイズ発表を終えたゆり組の様子を振り返り保育者と研究者によって反省会を実施したところ、①声が小さい②ヒントを伝え、わかり易くする③その時の気持ち、他に描かれている絵についても質問する、などが見えてきた。これらの反省点を元に、2回目としてゆり組がクイズ発表を行なったところ、ばら組が行った1日目よりも一人、一人の思いや考えを聞く事が出来、発表も自信を持ってする事が出来た。

クイズ作成から自分絵本作りにつなげる

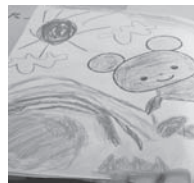
クイズ大会を通して、同じ絵でも自分の思考と、友達の思考は違う事に気付く事が出来た。OHP シートは1枚の絵で終わっているの、今度は絵を何枚もつなげてお話を作り、「自分絵本」を作る提案を保育者からしたところ、子ども達から、やってみたい、楽しみ、などの声が上がリ、ゆり組、ばら組それぞれのやり方で行うこととした。

まず、動物の顔や○△□の図形を登場人物の素材として用意し自由に使えるようにした。



<ゆり組の取り組み>

担任が声掛けを行い、子どもの言葉を引き出すようにした。お話のストーリーを話し合いながら決めて書いた。



ねずみさんがボールに触ったら虹色になった。
【そのあとどうなったの？】
空を飛んで宇宙にいった。ボールをはなすと虹が消えたよ。なぜ消えたんだろう？

<ばら組の取り組み>

子どもが1ページ描き終わると、「次はどうなった？」と保育者がお話の続きを尋ねた。問いかけに応じて子どもが考えて描くこと繰り返した。お話の終わりや表題も子どもが決めた。



「風ってきもちいいな」

全員の作成が終わった時に、クラスで発表の場を持った。同じ動物の絵でも、みんなそれぞれにお話しが違い、思いや考えが違うことに気づけた。やっていくうちに楽しくなり、子どもから「お話がたくさん作れる」などの声が聞けた。遊びや活動の中で他者の思いや考えを理解する、自分の思いを言葉で伝えるというねらいを達成出来た事を実感した。

学会発表での実践者との交流から

学会発表では、「友達同士けんかをした時、相手の子はどんな思いしてるの?と場面で注意するだけだったが、このようなやり方で他者の気持ちを考えられるのですよね」や、「この取り組みが、年長での育ちにどの様につながったのかも大変興味深い」とコメントがあった。

(発表担当：石岡)

3歳児テーマ「遊びを通してコントロールする力を身に付けて、他者理解を」の背景

年少クラスの担任の間では、日々の保育や遊びの中で、子ども間、子どもと保育者間の会話が成り立たない事が多くあり、子ども達のコミュニケーション能力に課題があると認識した。平成26年10月下旬から、クラス担任が連携し、年少児の保育活動の中で、遊びを通して子ども達のコミュニケーション能力の基礎を培う方法について検討した。その基礎として「自分で行動をコントロールする力」を育てることを意識し、年少クラスの担任で、様々な遊びを考えた。この基礎力を高め、子ども達と共に他者理解のためのコミュニケーションをとれるような手立てを作ってきた。具体的な遊びとその遊びによって育てたい基礎力の関係を図1に示す。

保育者の行う行動を見て同じように真似ていく、④は、トランプの神経衰弱を、簡単な形にしたカードを使って行う。子ども達の馴染みのある動物カードを使って坊主めくりを行う(坊主、お姫様の役割を変えて行う)⑤は、保育者の言葉を理解して、指示に従って移動する⑥は、友達や保育者の言葉を理解して動く。友達の前でしっかりした声で発言する、であった。以上の活動を、日々の保育の中で取り組んでいくことで、子ども達に「話を聞くこと」が「楽しいこと」に繋がっていくことを知らせるようにした。

取り組みにおける子どもと保育者の様子とその変容

活動開始当初は、様々なルールを把握し理解していく事が難しい部分があり、同じことを何度も繰り返して説明することが多かった。これらを継続する中で子ども達の姿勢にも少しずつ変化が出てきた。園内だけでは難しい部分もあるので、保護者の方と話す機会の中で、園での活動のねらいと内容を紹介するとともに、家庭でコントロールする力を育てるため意識を持っていただくよう協力を求めた。その中では、個と集団の違いを(園と家庭での違いを)、保護者にも感じて頂くよう心がけた。園での勝敗がかかった遊び活動では、子ども達の中に負けて悔しいと思う気持ちも出て来た。保育者が周囲の様子を把握し、ルールを理解していくことを意識付けるように工夫したことで、クラスの中で、個から集団を意識しだすようになった。「やらされている」ではなく、子ども達からチャレンジしていこうという気持ちが出てきたことで、その意欲が活動にうまく連動し、次の活動の期待へと変わってきた。

現在、年中児となった子ども達は、1クラスの人数が増えたこともあり、環境が変わった進級当初は、コント

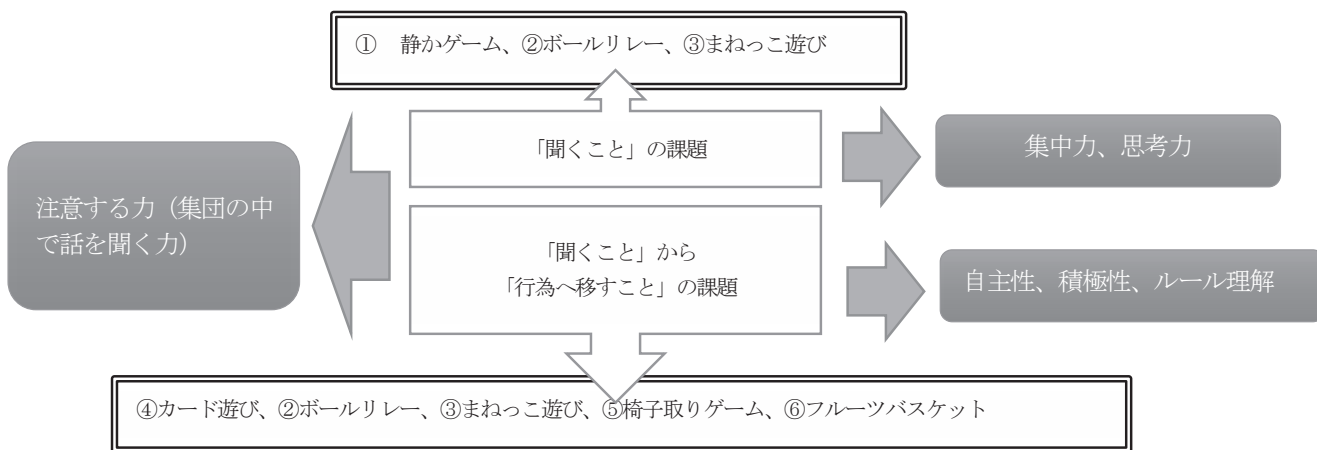


図1. 年少児のコミュニケーション力を高めるために育てたい具体的な力とそのための遊び活動

具体的な取り組み内容の紹介

図1で紹介した遊びについての具体内容は、①は一定の時間内で、静かに姿勢を保って座る(時間を伸ばしていく)②は、ボールを持って様々なルールを理解して(ボールの運び方、移動の仕方をかえていく)、友達と協力してゲームを楽しむ(クラス対抗、クラス混合)③は、保

ロールすることが難しい様子もあった。しかし、子ども達が自信を持って活動をこなしていけるように、継続的に保育者が言葉がけを行いながら、日々の保育を子ども達と共に楽しんでいる。(発表担当：原田)

中国・東北師範大学幼児教育学院王小英教授／講演概要

『幼稚園園長の専門性基準』および園長研修の実施

最後に園長研修の形式について紹介します。中国の園長研修には、7つの形式があります。

①専門家による講演会②公開研修（教育の現場に園長たちが赴き、現場の園長と共に一緒に検討する）③テーマサロン④園長同士のワークショップ⑤実践教育基地での観察研修（「実践教育基地」に指定されている園に訪問して、その園長の仕事を1～2日観察する）⑥管理職の経験を共有する研修⑦チューター制（新たに取り組んでいるこのチューター制とは、2人のチューターが5～6人程の園長と共にチームを組み、園長研修センター独自作成のチューター指導要領をもとに指導します。この指導形式は修士課程の指導の形に似ています）

本講演会では、以下の研修形式について具体的な報告がありました。

【専門家による講演会について】

講演会では、国内外の大学教授等の専門家を招致して、園長研修を行っています。その他、園長に積極的に海外の国際会議の情報を提供しています。今年の後半には、日本、台湾、カナダ、アメリカなどの国や地区と連携し、園長の多様な要求に応じて、専門性を促進するために海外の学術会議に参加できる機会を提供します。

【公開研修について】

公開研修で幼稚園に実際に行った際は、主に環境と教育内容の観察を行い検討します。2カ月の研修

の期間中、各週に一度園を観察します。一つの省だけではなく、他の省の幼稚園を観察することもあります。観察研修は、園長の仕事を1～2日観察し、研修を行います。園長は研修している間に幾つかの活動を新たに考え、子どもたちに実践できるようにします。

【テーマサロンについて】

テーマサロンでは1つのテーマについて、園長同士が議論をします。例えば幼稚園の小学校化について小学校校長も交えて議論をします。その他この研修では、教師をどのように育てるかについて検討したり、グループでのプレゼンテーションを行ったりもします。

【実践教育基地について】

現在、実践教育基地の拡大にも力を入れており、現在は多くの園長の要望に応じて、瀋陽、大連、ハルビンなどの東北三省をメインとする質の高い幼稚園として実践教育基地群を設立しました。今後は中国の東部、中部、南部等で質の高い幼稚園を選び、実践教育基地群を作る予定です。また定期的に実践教育会議を開き、今後2～3年の間に地図に示すように、全国的に実践教育基地の設立を目指しています。実践教育基地には、機関幼稚園、企業が経営する幼稚園、少数民族の幼稚園（例えば朝鮮族の幼稚園）、農村幼稚園、質の高い私立幼稚園があります。今の中国には21万の幼稚園があり、その内、私立

幼稚園が14万園程、公立幼稚園が7万園程です。また1園の幼稚園の規模は、400～500人となります。

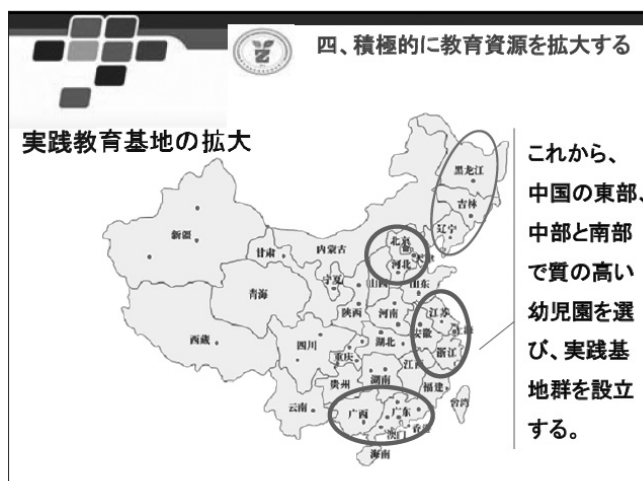
【チューター制について】

チューター制の研修には、各省から1名の優秀な園長が推薦を受け、1期には32人の園長がいます。中国はちょうど32の省があります。各省1名の優秀な園長の研究クラスになりますが、これは大学院の修士課程と似ており、まず研究のテーマを発表することとなります。またこの研修では2年の研修期間を経て最終的に口述試験があります。研修の授業がない日には、民俗博物館などに行っています。また最後には卒業式のようなものを行います。

以上これらの研修後、園長たちが学習した感想を1冊の本にまとめて出版します。管理職の経験をケーススタディのように共有した出版物等もあり、園長たちはそれぞれの本を持ち帰ります。

そして、これらの研修の講義内容もDVDに収め、園長と一緒に持ち帰ることができます。各省から集まった32園の写真と資料の共有となります。この全ての資料を持って帰り、現場の先生たちと一緒に共有することができます。

最後に研修の報告書ですが、テーマについて検討したものは、検討を文書にまとめて出版します。研



▲実践教育基地の地図

修を終えた園長たちには、最終的に研修のまとめを作成します。

また研修の後、研修を受けた園長の園にチューターが行き、園長と交流や、指導することもあります。その研修を受けた園長の園で指導をした後に、全園の園長と一緒に話し合いの会議も開きます。研修を終えた園長から研修のコメントや園の改善案等（具体的には、保護者との交流会の実施、農村幼稚園における送り迎えカードの製作、園の規律の改善）が研修センターに戻ってきます。

（兵庫県尼崎市・認定こども園七松幼稚園園長／亀山秀郎）

地域で生き残る園になるためのサポートブック



ISBN978-4-577-81395-9 768

園のリーダーのために 保育ナビ

管理職向け月刊誌

定価：本体価格926円＋税

B5判 72ページ

2016年度 8月号の主な内容

- 保育ナビスペシャル対談** 今月は「動物を見ることで知る 子育ての本質と生きる力」とし、上野動物園の土居利光園長にお話をうかがいます。「動物」の生態から見えてくる、われわれ「人間」の本来あるべき姿とは…？
- 特集 データと事例で見る 子どもをめぐる 10年の歩みと園のこれから**
ここ10年を軸に、子どもをめぐる社会全体の動きと業界全体のこれまでの流れを整理します。保育界を含む社会状況の変化を知ることは、今後の園経営と保育の質向上のヒントになります。
- 0・1・2歳 心の育ちと保育者の専門性**
泣いている子の涙を拭いてあげようとするエピソードから、1歳児の心の育ちを考えます。

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育営業部まで

キンダーブックの **フレール館**

67周年を迎えて

全国の皆様、こんにちは、連日の猛暑で夏本番となってまいりました。夏バテ等に成らぬ様、体調管理には気を付けたいものです。

愛知県私立幼稚園連盟は1950年(昭和25年)に設立され、今年で67周年を迎え平成25年より公益社団法人として活動しております。現在は、418園の加盟園のうち幼稚園385園、認定子ども園33園となっています。昨年度より13園の幼稚園が認定こども園へ移行しました。

さて、昨今待機児童の受け入れの問題と共に保育士不足が深刻な問題となっていますが、愛知県でも保育士、幼稚園教諭の人材不足が切実なものとなっています。愛知県私立幼稚園連盟では、新卒者に対し統一試験、私立幼稚園就職説明会、養成校へのPR(キャバン隊)等、就職希望者が幼稚園に希望を持って就職して頂けるような活動を行っています。ただ、問題は就職希望の学生が、公立保育園や株式会社に希望している者が多い傾向があり、私どもと致しましても、今後私立幼稚園で働くやりがい等を伝えていかなければならないと感じております。また、新卒者だけでなく離職者が職場復帰できるような人材活用センター事業を行っているのですが、連盟の今年度の新しい取り組みとして人材活用センター・運用特別委員会を発足し、離職した保育士などにホームページ等で求人募集の情報を公開し少しでも職場復帰がしやすいよう取り組みを始めました。

今後も保育士不足問題が解決されるにはまだまだ時間がかかりそうです。政府の政策も保育士の処遇改善に焦点が当てられたことは大変喜ばしいことですが、更に一步踏み込んでほしいと思います。(公社)愛知県私立幼稚園連盟広報部長、安城市・二本木幼稚園/寺部大

子どもの「今」に寄り添い 『未来』を築く

日本一の琵琶湖を持つ滋賀県ですが、県私立幼稚園協会への加盟は22園と極めて少ないのが現状です。

しかしながら、平成26年度は当番県として近畿各地から1,000名もの先生方をお迎えをして近畿地区私立幼稚園教員研修大会を成功裡に終えることができました。「山椒は小粒でもぴりりと辛い」とその存在感を自負しています。

子ども・子育て支援新制度から2年目となった平成28年度、本県におきましても従来の私学助成園から、施設型給付の園あるいは幼稚園型認定子ども園や幼保連携型認定こども園へ移行する、ないし移行を視野にいられた動きが大きいです。

公立、私立を問わず幼稚園や保育園を取り巻く環境が大変複雑で先行きに不透明感があります。わが協会では奈良会長を先頭に、指導者一人一人が、「幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を持つ」ということを肝に銘じて次の5点を重要な課題として取り組むことにしました。

①私立幼稚園の経営をめぐる今後についての研修会の開催(既に移行した園の検証も含めて)
②幼稚園教育の質の向上を目指す研修会の実施
③公開保育の継続的实施④公開保育コーディネーター養成講座への参加奨励⑤教員免許状更新講座への参加です。

子どもの「今」に寄り添い、子どもと『未来』を築くには、教育の充実こそが私たちに課せられた使命とも感じています。夢とロマンを持って切磋琢磨していきます。

(滋賀県私立幼稚園協会副会長、滋賀短期大学附属幼稚園/小野清司)

第 32 回 全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会

平成 28 年 10 月 17 日 (月)・18 日 (火)

会場：石川県金沢市・ANA クラウンプラザ
ホテル金沢

開催要項は各都道府県私立幼稚園団体事務局
を通じて配布いたします。

編集後記

この号が出る頃は夏休み直前、子どもたちは帰省や行楽地へのお出かけ、あるいは家族旅行など、夏休みへの期待に胸を膨らませていることでしょう。先生方も 1 学期に区切りを付け、夏休みをゆっくり過ごし 2 学期へ備えたいところです。

ところが、近頃はお泊まり保育や夕涼み会などの定番行事に加え、長期休業中の預かり保育が当たり前のようになり、昔のようにゆっくり夏休みを楽しむということができにくくなっています。私は大丈夫、とっていても知らず知らずのうちに疲れが溜まっているものです。その疲れをどこかでリセットしないことには緊張の糸が切れてしまいます。

今年はオリンピックイヤー、8 月 5 日からリオ五輪が始まります。日本選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう応援し、気分転換をはかりたいと思います。ただし、応援に夢中になりすぎて寝不足になっては逆効果！

(調査広報委員長・四ツ釜雅彦)



新しいものを見るたび、触れるたび、

目覚ましく成長する子どもたち。

子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。

育む環境で、子どもたちの明日は変わる。

だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。

好奇心や想像力、勇気や感動。

そして、子ども同士の関わり合い。

子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、

最適な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



シヤクエツ

平成 28 年度（第 6 回）免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
山形県 山形市	「国の教育政策や世界の教育的動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の 4 つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は 9 月 11 日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	大桃 伸一（東北文科大学 教授） 永盛 善博（東北文科大学短期大学部 准教授）	6 時間	平成 28 年 9 月 10 日	60 人	平 28-80012-100959 号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
山形県 山形市	本講習では、「幼稚園を巡る近年の状況の変化」「幼稚園教育要領の改訂の動向等」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は 9 月 10 日開催の必修講習と連続して行うものです。	下村 一彦（東北文科大学准教授） 村上 智子（東北文科大学准教授）	6 時間	平成 28 年 9 月 11 日	60 人	平 28-80012-301724 号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 釧路市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり取り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長・園長）	6 時間	平成 28 年 9 月 24 日	50 人	平 28-80012-507422 号
北海道 稚内市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり取り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	山田克巳（拓殖大学北海道短期大学保育学科教授）	6 時間	平成 28 年 10 月 1 日	50 人	平 28-80012-507423 号
北海道 函館市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり取り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	高山晃作（北海道福祉教育専門学校こども未来学科教諭）	6 時間	平成 28 年 10 月 8 日	50 人	平 28-80012-507424 号
北海道 函館市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の 2 つの事項について理解と実践をふり取り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長・園長） 若林卓実（あけぼの幼稚園園長代理、（公社）北海道私立幼稚園協会教育研究委員）	6 時間	平成 28 年 10 月 9 日	50 人	平 28-80012-507425 号
神奈川県 小田原市	馬見塚：絵や文の機能を手掛かりにして、絵本の基本概念を理解する。また、表現の仕組みについて、演習を交えながら考察する。 野津：これまで私たち幼稚園教諭が子どもたちのためと思って整えてきた環境は…子どもにとってもそう感じるものだったのでしょうか？子どもにとって本当に必要な環境とは何か一緒に考えていきましょう。	馬見塚昭久（小田原短期大学保育学科講師） 野津直樹（小田原短期大学保育学科准教授）	6 時間	平成 28 年 10 月 29 日	300 人	平 28-80012-507426 号
神奈川県 小田原市	望月：本講習では、幼児から中学生までの音楽的活動を見つめ、幼児の音楽的表現活動を見据えた教材選択、製作、展開、指導について考える。また、教材研究に必要な音楽の要素に関する知識を確認し、表現技術の実践を行う。 上野：児童虐待、DV、子どもの貧困など、子どもを巡る家庭の問題を取り上げ、社会的な視点で現状を捉えるとともに、幼稚園での保護者対応に必要な相談援助の方法を考える。	望月 たけ美（小田原短期大学保育学科講師） 上野 文枝（小田原短期大学保育学科講師）	6 時間	平成 28 年 10 月 30 日	300 人	平 28-80012-507427 号
神奈川県 小田原市	菊地：園には子どもの数だけ保護者とのかわりが存在し、幼稚園教育要領にも家庭との連携の重要性が挙げられる。本講習では、ニーズが多様化し保育が多角化する中での保育者の役割を整理し、保護者支援の先を考える。 小倉：各種の発達理論と目前の子どもの発達の事実を、どのように結びつけ指導に生かすのか。人から成人までの発達の道すじを俯瞰し、人間発達のダイナミックな構造に迫ることで、改めて乳幼児期の課題とは何かを考える。	菊地篤子（小田原短期大学保育学科准教授）、小倉直子（小田原短期大学保育学科講師）	6 時間	平成 28 年 11 月 12 日	300 人	平 28-80012-507428 号



バス専用機不要！
スマホで簡単バス運行管理！

くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

いつもNAVI

「いつもNAVI 動態管理サービスfor送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社ゼンリンデータコムに登録商標です。

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。

 **株式会社チャイルド社** インターネット課

TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>